

「何もできなかったけど、みんなのおかげで少しは成長できたかな」これは、僕がこの1年を振り返ると一番最初に出てくる言葉です。今年は、企画委員と合唱祭や3年生を送る会の実行委員を兼務したり、SATや野球活動のキャンプファイヤー漫才をしたり、いろいろなことに挑戦した1年でした。その中でもまだ記憶に新しいのは、三送会実行委員とキャンプファイヤーです。三送会実行委員は、企画委員の中から募った7人でほぼ毎日のように朝集まり、みんなでよいものを作ろうと話し合いをしました。その中で僕はリーダーを務めていたけれど、話し合いの場では自分の意見があってもなかなか言えず何も決まらずに終わってしまうことがありました。しかし、他のメンバーが、先生と話し合いをしたり、とてもよい意見を出したりしてくれました。また、多くの部活動の協力もあり、とてもよい動画を作ることができ、1・2年生の思いを3年生に伝えることができたと思っています。リーダーとして何もできなかった僕ですが、何も学べなかった訳ではありません。僕は行動することの大切さを学びました。キャンプファイヤーの漫才はSATで後期企画委員の意気込みを話すときに、クラスの女子企画委員に「ネタを書くからやって」と言われたのがきっかけで始めました。男子学級委員とコンビを組み、SATで2回、野外活動で1回披露しました。初めてやったときは、僕がネタをとばしてしまい、不完全燃焼に終わってしまいました。ネタをとばした原因を考え、練習量を倍にした2度目は、ネタをとばさずやり切ることができました。満足のいく漫才ができたので今回でやめるつもりでいましたが、野外活動の1週間前、大谷先生からキャンプファイヤーで盛り上げてほしいと言っていたので、相方を誘い、とにかく本番まで時間がなかったのでとても焦りながら練習しました。お互い不安だったので行きバスや部屋の中でも練習し、自信をつけました迎えた本番、僕らのコンビ名が呼ばれ緊張しながらもネタを始めました。始めた瞬間、たくさんの笑い声が聞こえてきました。この日は相方もとても順調で、恥ずかしさを捨て大きな声で突っ込んでくれました。ネタを終えると、達成感ときっかけを作ってくれた女子企画委員の2人、僕の相方として一生懸命やってくれた友達への感謝でいっぱいになりました。

来年は緊張感のある空気の中で日々の努力や練習の成果を出しきる機会がとて多いと思います。試験当日や部活の引退試合など大事な場面で勝負強さを発揮していきます。